



福王寺だより

今年は特に暑い夏になりましたね、北海道とは思えない夏でした、コロナもそうですが、気候変動にも思い合い、助け合い乗り越えて行きたいですね。

ご縁を想う

あなたのパラシュートを詰めるのは誰ですか？

ベトナム戦争の時の話。アメリカ戦闘機のパイロットだったチャールズは、何度目かの出陣の時、敵のミサイルにやられてしまいました。彼は危機一髪のところまでパラシュートを開いて脱出し、命拾いをしました。ただ、敵陣の真ん中に降りたため

に捕まり捕虜となりました。やがて終戦を迎え、チャールズも無事にアメリカに戻る事ができました。それから数年後のある日、街のレストランで食事していると、ひとりの男が近づいてきて、こう言いました。「やあ、あなた、チャールズじゃあないか。ミサイルにやられたって聞いてたけど、無事だったのか」。驚いたチャールズが、「あなた、誰だい？なんでそんなことを知っているんだ」。すると男は微笑みながらこう言いました。「俺があんたのパラシュートを詰めたのさ。どうやらちゃんと開いてくれたらしいな」。

黙々と詰めていた。自分は彼らに一度だつて、「ありがとう」と言った記憶がない。チャールズの心に、生まれて初めて恥ずかしさと深い後悔と、感謝の思いが湧いてきたのでした。

あなたの周りに、あなたのためにパラシュートを詰めてくれている人はいませんか？(百年思考より)

私たちは目の前の利益だけに目がいて、様々なお陰を感じる事が難しい生き物です。例えば、薬にしてみてもたくさんの人たちが色んなものを試しながらときには傷つき、何度の実験、努力によって私達目の前にあります。たくさんのご先祖様、死に死に



死んでいった方たちが、周りの人たち、後の世の人達が幸せであるように願った結果、たくさんの物事が生まれ、その恩恵を私たちが受けています。

そうした目に見えない、気がつかないお陰様の働きが仏であり、先祖様でもあると思います。

お参りするとは、そうした縁に思いを向けるという事であるとも思います。決して一人で生きているのではなく、たくさんのご縁に支えられている。そうしたものの感謝をして生きていく、そして布施とは、私達が何かのために行動するということです。檀家さんの語源はダーナ（布施する人）という意味です。

皆さんの布施が、因となり結果となっていく、誰も気づいてくれないかもしれない

けれども、何かの助けとなっていく。

こうした行いが布施です。「咲いた花見て喜ぶならば、咲かせた根本の恩を知れ」。

目に見えない根に心を向けることが、私達の人生を豊かにしていきます。

ですが私達は、目に見えるメリットがないと損をしているような感覚になりますし、寄付を義務金みたいな形でお願いする事もおかしな事です。事業を達成して次世代に繋いでいくためにはそういった連絡をせざるを得ないのが現状です。

今、皆様方に百周年の御寄進をお願いしております、たくさんのお力を頂けます事本当に有難い限りです。このお力がお寺の支えとなり、私達はもちろん、未来の方たちの幸せへと、誰かのパラシュートとなるよう

に尽力していきたい所存です。

本当に大変な中のご寄進、ご記帳ありがとうございます。事業進展がありましたらご報告させていただきます。

行事のご案内

「秋彼岸」

九月二十日（水）

午前十時 於 福王寺北見別院

九月二十三日（土）

午前十時 於 福王寺

※ご遠方で、当日お参り出来なく、ご廻向希望の方は同封の振替用紙をご利用下さい。

